

研究情報公開文書

1. 研究課題名

日本における医師の臨床離脱時期とその規定要因:診療科および専門資格による差異の解明

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本における医師の診療期間(医籍登録から診療業務終了までの期間)に影響を及ぼす要因を、診療属性および勤務環境の観点から包括的に明らかにすることである。具体的には、診療科別の臨床離脱時期、専門資格の保有状況、勤務施設種別(病院・診療所・医育機関等)が総診療年数に与える影響を検証し、併せて55歳未満の早期退職のリスク因子を特定する。医師届出票を用いる理由は、本研究の目的を達成する上で、日本国内で診療に従事する医師の勤務地域、診療科及び勤務状況を網羅的に把握できる資料として医師届出票が存在し、90%以上の医師が回答していることから、最も効果的に情報を把握することができる。

3. 研究の方法

研究デザイン:後ろ向き観察研究

対象データ:厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」の医師届出票データ(二次利用)

対象期間:1982(昭和57)年～2024(令和6)年

対象者:上記期間に医籍登録を行い、医師届出票に回答した医師

解析手法:医籍登録番号を用いて経年データを結合して縦断的コホートを作成し、主要評価項目(診療業務からの恒久的な離職)までの期間について、生存解析(Kaplan-Meier法, Cox比例ハザードモデル等)および一般化線形混合モデル等を用いて解析する。

倫理的配慮:取得データは東京大学にて個人識別情報を特定できない状態にした上で解析を行う。オプトアウト(情報公開と拒否機会の保障)によりインフォームド・コンセントの手続きを行う。医籍登録番号と研究用IDの研究対象者リストを作成し、研究対象者リストは島根大学の情報セキュリティ対策がとられたPC端末において研究責任者が厳重に管理する。個人が特定できないよう加工を行なったデータは、CD-Rを追跡番号付きの書留郵便にて島根大学及び東京医科大学に送付する。パスワード付きZip形式として保存を行った状態にしておく。パスワードは電子メールに別経路で送付する。島根大学と東京医科大学の担当者は受領確認を東京大学の研究代表者に通知する。送付の場合も同様である。

研究期間:2026年3月(研究許可後)～2030年3月31日まで行う。

4.研究の意義

「医師の働き方改革」や新専門医制度といった政策転換期において、医師のキャリア継続に関する基礎データを提供する。診療科別の引退年齢や早期離職の実態を定量化することで、地域・診療科偏在の是正や、医師の勤務環境最適化に向けた政策立案の科学的根拠となることが期待される。

研究組織

この研究は次の機関が共同で行います。

研究代表者:

島根大学医学部附属病院総合診療医センター 坂口公太

共同研究機関

[研究機関]	[研究責任者]	[研究機関の長]
島根大学医学部附属病院	坂口公太	竹谷健
京都大学医学部附属病院	和足孝之	波田野悦郎
東京大学	橋爪真弘	南学正巨
東京医科大学医学研究科	小向翔	横山詩子

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしい方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者:坂口 公太

島根大学医学部附属病院総合診療医センター

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2217 FAX 0853-20-2247

作成日:2026年5月27日(水) 版:4.0